

URA の湯遍路旅日記 2015

——中国・タイ編——

浦 達 雄

1. はじめに

2015年の湯遍路の海外旅は中国・タイで行った。回を重ねると、同じ場所でも新たな発見があって、自己満足に浸っている。今回は、毎年のように訪問している中国の北京と山西省の温泉、タイのチェンマイ周辺の温泉となる。ここでは紙面の関係で、その一部（筆者が面白いと思う内容）を紹介することにしたい。

2. 夏を控えたチェンマイ行き（2015年2月26日～3月2日）

2015年2月26日（木）から3月2日（月）まで、タイのチェンマイへ出かけた。訪問理由は主にロングステイの調査である。4月18日に開講する「タイ北部のロングステイ・ショートステイについて～定年後の新たな過ごし方を考える～」の調査となる。日本人が主に利用するコンドミニアム・ゴルフ場・レストラン・ラーメン店・マッサージ店などの見学と利用をした。

(1) 2015年2月26日（木）：カレーライス・マッサージ

TG 623 便は関西空港発 11 時で、バンコクのスワンナプーム空港へは 15 時 45 分到着予定。その後、乗り継いで TG 116 便はバンコク発 17 時 25 分、18 時 25 分にチェンマイ到着予定。

①夕飯はカレーライス

そんな訳で 18 時 35 分にチェンマイへ着いた。ガイドさんのお迎えがあって、19 時過ぎからショッピングセンターの食堂「COCO ICHIBANYA」で、カレーライスを食べた。野菜カレーは 150 B・サラダ 30 B・味噌汁 20 B・日本茶 40 B となる。スーパーで買ったバナナは 5 本で 20 B。1 パーツ (B) = 約 3.5 円。

②マッサージ

食後、ガイドさんか関係するロータリークラブのパーティへ少しだけ立ち寄って、町の中でマッサージをした。22 時から 1 時間。60 分 300 B でチップ 50 B。ガイドさんがロータリアンで、チップは必須となる。

マッサージ嬢（オバさんを含む）3 人に温泉に行くかどうか、聞き取り調査をした。A さんは「行かない」、B さんは子供が 2 人いて、サンカーンペン（ルンアルンなど）へ、夫とたまに行くとか。C さんは子供が 13 歳で、ドイサケットへは友達と行き、足湯などを行うとか。なるへそ。宿泊先はガイドさんの自宅隣のパンティラハウス。今回は個人旅行なので、1,000 B で交渉した。

(2) 2015 年 2 月 27 日 (金) : コンドミニアム・忍者ラーメン・ガイドさんの話

10 時スタートで、ガイドさんの自家用車で、ロングステイをしている日本人の方を訪問した。その前に以前に購入した金貨をパーツに交換した。店舗の屋号は漢字だと「行金成和馬」。15.0 グラムは 18,500 B で、購入した金額と同額だった。途中、ガイドさんの母親が所有するピン川沿いの物件を通った。現在、レストランに貸しており、100 万 B/年の収入とか。

①街中の新しいコンドミニアム

まず、街中の新しいコンドミニアムを見学した (写真 1)。最近、こうした新しいコンドミニアムが増えているとか。係りの方に部屋とか、レストラン・プールなどを案内してもらった。短期ステイにも対応している。

②ピン川沿いのコンドミニアム

次は古いコンドミニアムを見学した (写真 2)。ここは米国領事館に近いので米国人、そして日本企業の単身赴任者が多いとか。以下、聞き取りの概要となる。

聞き取り相手は妻 (日本人) 72 歳で、元の仕事は芸能人を対象としたメイク関係。69 歳まで働く。結婚して 32 年。滞在歴は 2 年 7 ヶ月。夫 (カナダ人) 58 歳は日本在住 28 年で日本滞在中の主な仕事は英語講師とのこと。

部屋 (レンタル) は 2.3 万 B/月で、リビング・台所・寝室などを付帯する。生活費は 2 人で 10 万 B/月。チェンマイに来た理由は東京では借家生活で、定年後は外国で暮らす予定だった。

生活のパターンは 8 時 30 分起床。週に 2 回はタイ語の勉強、ジム・プール週に 3~4 回、アイパッド講習週に 1 回、コーラス 1 回 (土曜日) となる。毎日、近くの市場へ行き、レストランで食事をする人が多い。その他として掃除は外注。

③忍者ラーメン

昼飯は忍者ラーメンにした。ラーメンセットは 99 B で、トンコツだと 100 B になる。店内には先客で、日本人男性 3 組 (2 組は 2 人連れ) の方がいた。読売新聞があるので、皆さん、熱心に読んでいた。いずれも 70 歳代だった。

④街中の古いコンドミニアム

午後から街中のコンドミニアムへ行った。以下、聞き取りの内容となる。

聞き取り相手は 82 歳の女性で、滞在歴は 3 年。それまでショートステイ (3 ヶ月) の経験がある。夫とは死別。夫は大企業の重役 (20 年前に死亡)。娘家族 (4 人) が 8 年前からチェンマイ在住。

部屋 (レンタル) は 2 万 B/月。1 年分を払うと、1.3 万 B/月になる。リビング・台所・寝室など。借りる際の前払いは 2 ヶ月分。

生活費は 1 人で 3 万 B 程度/月。電気代は 648 B/月、水道は 75 B (井戸水?)/月。チェンマイに来た理由は日本では 1 人生活。娘家族がチェンマイにいるので。

生活パターンは次の通り。月：家のこと。料理準備。肉を切る。火：午前奉仕 (宗教関係)、聖書を読む。午後は昼寝、買い物。友人来室。水：午前はタイ語の勉強。400 B (2 時間)。午後はタイ語の復習、文字の練習。木：午前は勉強。午後は掃除 (14 時~16 時) 200 B、夕方は娘と買い物、夜は勉強。金：午前は奉仕 (宗教関係)、聖書の勉強。午後は昼寝。土：午前は家族研究 (聖書)。午後は昼寝、買い物、友人来室。日：午前は勉強会 (宗教関係)、午後は昼寝、勉強。その他として、7 月下旬~8 月は大阪滞在 (病気治療)。孫 2 人は、

3ヵ月ほど帰国して、出稼ぎをしている。

席上、ビザ（査証）の話になった。年金（リタイアメント）ビザは、1年更新で80万Bの預金が必要と言われたが、いまは日本円で300万円らしい。ビザなしの場合は、1ヵ月滞在OKで、一度外国へ行くと、さらに1ヵ月の滞在が出来るとか。よく分からない！

⑤KANTARY HILLS HOTEL CHIANGMAI

15時からカンタリーヒルズホテルを訪問した。ホテルだが、コンドミニアムの機能を備えており、日本人歓迎とか。高級ホテルであり、滞在費も高い。

⑥第2日目のまとめ

ガイドさんなどの話を整理すると、次の話が面白いと思った。某日本企業の工場長は、コンドミニウムに滞在中、急死したとか。50歳代で、部屋には若いタイ人女性がいた。死因は色々と言われているが、死人にくちなしで、日本から来た家族が気の毒だと思った。

それからガイドさん個人の話。彼女は元々国家公務員だったが、色んな事情で早期退職をして、旅行会社経営となった。ガイド以外は、自分の家で日本人を対象にタイ語を教えている。授業料は室内（ガイドさんの家）500B・室外（出張講義）600Bとなる。学生数は10人程度。

夕飯はショッピングセンターで、サラダセットにした。190B×2人で、サービス料38B、税金29.26Bで合計447.29Bだった。センター内の民芸店でキーホルダーを買った。大阪観光大学の文化祭での販売用である。1個20Bで、11個×20B=200B。10Bの分は12個×10Bで100B。今夜はマッサージをしなかった。

(3) 2015年2月28日（土）：ゴルフ場・分譲地・公園・マッサージ

①LANNA GOLF COURSE

10時出発。途中でトウモロコシを買った。4個40B。郊外のゴルフ場だが、30分で着いた。軍隊のゴルフ場とか（写真3）。グリーンフィは9ホール159B・18ホール230B、キャデフィは9ホール73B・18ホール130Bとか。なお、キャデイさんは500人いて300人が出勤している。

その後、ゴルフ場近くの住宅分譲地へ行った。チェンマイでは一番古いとか。1階建が多い。約20年前の開発となる。当時は50万Bだったが、現在は高騰している。中古住宅で400万B・500万B・400万Bの家を見学した。レンタルハウスは1.2万B/月を1軒見学した。いずれの家屋も広いと思った。近くの民家に住み込みで働いている女性に話を聞いた。彼女は独身でミャンマーから出稼ぎに来ており、サラリーは7,000B～8,000B/月。住人はおばあさん1人とか。

ガイドさんの話では、日本のように礼金・敷金の制度は無く、2～3ヵ月分を先に支払う仕組みらしい。なお、一般的な車の値段は新車50～60万B・中古30万B・中々古10万Bとのこと。

②ホワイトエレファント

昼飯はホテルのレストラン・ホワイトエレファントでバイキング。意外と日本人が多かった。バイキングは398B×2人。ホテル名はCHIANGMAI GRAND VIEW。近くには日本人男性3人組・日本人6人組（夫婦2組、男2人）・ミックス6人組（日本人60歳代・タイ人の奥方・その子供3人）。

ガイドさんの話では、街から空港までタクシーは 120 B。街中のミニバスは 20 B、ツクツク（輪タク）は 20 B、バイクタクシーは 5 B。

日本人男性 70 歳代はタイ人女性と付き合っており、彼女へ 130 万 B の車をプレゼントしたらしい。その内、彼女の郷里で家を作られるのでは、と心配していた。

③CHIANGMAI GYMKHANA CLUB

ここはチェンマイで一番古いゴルフ場で、1898 年創業。9 ホールのショートコースとなる。最初は 13 人で始め、イギリス人・タイ人などが関係した。

メンバーフィは 4 万 B/40 年、1 ヶ月は 1,000 B の支払い。最初 5 回は、キャデイのサービスがつく。メンバーは 367 人で、外国人（英・米・豪など）は 190 人、その内、日本人は 30 人。本人・妻・子供が利用出来る。

グリーンフィは 200 B で、ゲストは 300 B。キャデイフィは 9 ホール 100 B。緑色のオリジナル T シャツを買った。LL 300 B、M 200 B。

緑地で結婚披露宴が行われており、新郎新婦が記念撮影をしていた（写真 4）。結婚式のアレンジ代は 15 万 B、料理 10 万 B（280 人）とか。

④マッサージ

14 時 30 分から 16 時 10 分まで、いつものところでマッサージをした。ここが一番安いと思う。1 人は 400 B で、チップ 50 B はガイドさんの支払いとなった。

屋号は「Service for Thai Massage」。「Kad Suan Keau Chiang Mai」の地下 1 階、Zone B にある。営業は 10 時から 21 時まで。

⑤ラチャプリユック公園

時間があつたので、郊外のラチャプリユック公園へ行った（写真 5）。168 ライと広い。1 ライは 1,600 m²。入場料は 50 B で、園内の遊覧バスは 20 B。中国人をはじめ、多くの観光客がいた。

⑥夕飯

18 時 15 分からセントラルプラザの 8 番らーめん（本社は石川県金沢市）へ行った。ラーメンは 63 B・ご飯 20 B・水 3 B・餃子 6 個 63 B・とんこつラーメン 85 B で、234 B の支払いとなった。

⑦3 日目のまとめ

本日、ガイドさんから聞いた話は次の通り。ガイドさんの父親（2014 年 2 月逝去）は北タイのウタラダイト県の出身で、乗馬・ボクシング場を経営する実業家で、その間、レンタルハウスを経営。いま自宅前のビルに 18 室あって、7,000 B~1.2 万 B/月で貸している。家賃は 1 日 500 B だが、古くなったので入居者は少ない。近くのレンタルハウス（学生用）は 550 B/日・5,000 B/月とのこと。母親はスコタイ県の出身で、キザミタバコ・コメの販売などを行った。

それから、ミヤノイ（小さい奥さん）の話。本妻以外にミヤノイと付き合うには多額の費用を要する。1 万 B/月の手当て、交際開始時に本人へ 10 万 B、母親へ 10 万 B、結婚式 30 万 B 支払うことになる。さらに田舎に実家がある場合は家のプレゼントがたいてい義務付けられている。タイで結婚する場合は結婚証明書にサインするが、これが無い場合は結婚した事実証明はない。実際の夫婦でも結構証明書にサインをしないケースが多いらしい。

そして、ミヤマイは新しい奥さんとなる。日本語の出来る若い女性と付き合う場合は 2~3

万 B/月が必要で、とても年金生活者では支払えないと思う。

ガイドさんの家計の収支を聞いてみた。収入は年金 9,000 B/年、その他は講師料とガイド料。これに対して支出はかなり多い。ロータリークラブ会費 9,000 B/年・チャオ（日本語情報誌）の掲載料 3,000 B/月（月 2 回発行）・ローン返済（車）1 万 B/月・犬のエサ代（22 匹）6,000 B/月・携帯 1,000 B/月など。なお、現在、家を修理しており、総額は 300 万 B。妹（2014 年 5 月逝去）と母は 2 ライと 4 ライ（電気・水道なし）（1 ライ = 1,600 m²）の土地を所有しており、現在、妹の元夫と係争中とか。

車（トヨタ VIOS 1,300 CC）は 2010 年に購入。価格は 60 万 B で頭金は 15%。車の保険代は 1 年目が 2 万 B、2 年目以降が 1 万 B となる。車のナンバーは売り買いが可能で、9999 は 100 万 B で、たいていは 5~10 万 B で買えるとか。高いと思う。

妹はガンで、2014 年 4 月に東京で 1 カ月ほど入院したが、その際、300 万円の支払いだったとか。父の死後、弟は実家に帰って（父の部屋に滞在）、奥さんと別居中。現在、子持ちの人と交際中とか。

どうみてもガイドさんは生活苦だと思うが、よく分からない。ところで、父とガイドさんの干支はサル、母と妹はウシ、弟はイノシシとなる。

最近、雲南省から車でチェンマイに来る中国人が増えて、乱暴な運転・マナー違反ばかりするので、運転するのが怖いとのこと。

(4) 2015 年 3 月 1 日（日）～2 日（月）：サンカンペーン公営温泉・バイキング・帰国

①公営温泉

10 時過ぎからサンカンペーン温泉へ行った。行き先は公営温泉で、個室浴場での入湯が目的である。11 時過ぎに着いた。入園料は 40 B で、外国人は 100 B と高い。車は 40 B。足湯の利用客が多い。個室浴場に入った。男風呂は 15 室。入浴料は 40 B で、バス形式となる。イオウの臭いがした。

敷地内でキャンプのテント群を発見。キャンプは主に 12 月・1 月・2 月の冬季に多いとのこと。初めて見たので、思わず撮影を行った（写真 6）。

②バイキング

12 時前に出発して、12 時 30 分過ぎに THE EMPRESS へ着いた。ここは 4 星ホテル。バイキングの食事は 1 人 290 B と安い。「ここに幸あれ」が流れていた。日本人も多い。その後、いつものところでマッサージ。90 分で 400 B。チップは知らない。ガイドさんの支払い。

③帰国

17 時に空港へ着いた。別のカウンターでは行列が発生した。雲南省へ戻る中国人観光客である。当方のフライトは、TG 117 便、チェンマイ 19 時 25 分発、20 時 35 分バンコク着。TG 662 便は 23 時 15 分バンコク発、3 月 2 日 6 時 25 分、関西空港着となる。機中で深夜「ドラエモン」をみた。

3. 春節（旧正月）後の北京行き（2015 年 3 月 5 日～9 日）

2015 年 3 月 5 日（木）から 9 日（月）まで、恒例となった春節（旧正月）後の北京へ出かけた。3 月 6 日から全人代（国会）が開催中で、警備が厳しく、関係者が宿泊する北京国際飯

店は部外者の出入りが禁止になっていた。

(1) 2015年3月5日(木)：円安・時計の電池交換・マッサージ・瑠璃廠

①北京宝辰飯店・恒基商場

いつものように、関西空港 10 時発 NH 159 便で北京へ行った。関空の手荷物検査場は混んでいて、20 分待ちだった。現地時間 12 時 32 分、北京首都空港へランディング。13 時 28 分、机场(空港)快速に乗車(25 元)。途中、東直門で乗り換えて、14 時 23 分に北京駅へ着いた(3 元)。2014 年までは一律 2 元だったが、今年より上海のように距離制を採用して値上げとなった。

定宿の宝辰飯店には 14 時 30 分にチェックイン。部屋は 653。中国専用の携帯電話が、何故だか使用不可となって、やむなく部屋から電話をした。国際飯店の張氏とは 3 月 7 日 16 時 30 分、王師傅とは本日 18 時に会うことにした。

フロントで両替をした。円だとレートが悪いので、200 ドルを両替した。結果は 1,241.30 元。たぶん、1 万円だと 500 元程度だと思う。円安が進んでおり、日本人としては中国の物価は上昇したと思う。

いつものように、ホテルが入居する「恒基商場」ビルの地下 2 階の時計屋で、電池交換などをした。電池交換 50 元・ベルトの交換 33 元。その間、目の前のマッサージ店で足のマッサージをした。30 分で 98 元、いつの間にか時間短縮して 30 元値上げしていた。

ところで、このビルの 1 階にあった我が「菊水亭」が閉鎖。手頃な日本食堂だったが、本当に残念無念。10 年は利用したと思う。地下 2 階のスーパーで朝飯用のバナナを買った。7 本 7 元は安い。

②民俗酒楼

17 時 22 分、地下鉄で北京駅から和平門駅へ。その後、徒歩 10 分で、瑠璃廠に着いた。いつもの民俗酒楼で、17 時 45 分から 1 時間ほど王師傅と食事。2 人で 90 元だった。内訳はマーボー豆腐 18 元・ご飯 2 元×2・ビール 12 元・菊茶 15 元・カボチャの餅 18 元など。マーボー豆腐は 3 元値上げしていた。王師傅は 9 月 11 日生まれで、現在 58 歳とか。外で爆竹の音がしたが、正月十五らしい。

帰路は和平門から特 2 路のバスに乗り。北京駅前街に 20 分ほどで着くので便利。これは 2 階建バスとなる。ホテルでレートをみたら、1 万円は 506.1 元だった。ホテルから太原の朱先生に電話したら、昨日から講義再開とか。そして、大阪観光大学で短期留学を予定している瀋陽の張先生に電話。色々話し合った。

部屋に果物サービスがあった。バナナ・リンゴ・キューイ・青リンゴ・オレンジなど。これらは意外と美味しい。

(2) 2015年3月6日(金)：小湯山・電話

①小湯山温泉

11 時から小湯山へ行くことにした。週末は混むからだ。北京駅から天通園北駅までは地下鉄で 5 元だった。2.5 倍の値上げである。11 時 48 分、天通園北駅から 643 路のバスで小湯山へ。バス停は小湯山となっていた。従来は小湯山医院だったが…。運賃は 1.5 元。これは IC カードを利用した料金で、現金払いだと 3 元程度か。

12 時 22 分からいつもの重州拉面でラーメンを食べた(写真 7)。12 元と安い。麺の量が日

本の3倍ほどあって箸が重い。いつの間にか自助（食べ放題）をしていた。

12時47分から、小湯山村浴池で入浴。8元。6人ほど入浴中で、マナーの悪い連中がいた。帰路、右隣で按摩店を発見。早速、入店してみた。13時15分から14時50分まで。足と全身で100元+20元（チップ）と安い。

その後、温泉施設の価格調査をした。小湯山温泉双興浴池12元、老温泉20元。老温泉が高い。商店街の路上で果物を買った。イチゴは13元/500g。8元/1箱×2箱で14元。2箱にした。なお、500gは1斤（イージン）で、中国ではよく使う単位である。

15時24分、643路乗車。地下鉄を乗り継いで、結局16時45分にホテル着。夕飯はフードコートで済ませた。亜州ラーメン11元。ご飯2元と安い。

②電話

夜、山西省の神湯都温泉の王さんへ電話。経営は順調で、2014年の年商は1,000万元とか。利用客は200人~400人/日。ロッカーが400なので、400人が限界となる。王さんは同僚から、日本との戦争とか、自衛隊などの話を質問されるとか。現在、中国国内の温泉探訪を続けており、7月は広州、12月は重慶で研修を積み、次回は東北へ行くらしい。次回の個人的なお土産としてカステラを頼まれた。

(3) 2015年3月7日（土）：散歩・ホテルで夕飯

①散歩

午前中は久しぶりにホテル界隈を散歩した。ホテルが入居するビル名は「恒基商城」。ホテルのフロントは1階で、地下2階がスーパー（永輝超市）、そして時計屋やマッサージ店など、地下1階がフードコートとなる。北京駅東の商店の甘栗は18元/500g、交通図は3元だった。交通図は路上のオバちゃんだと1円でOK。

②張氏の話

16時30分、張氏がやってきた。近くに携帯の店があるとかで、SIMカードを調べに行った。1,500元とのこと。

17時から19時まで、ホテルの3階の中華レストランで、張氏と夕飯を食べた。いままでは菊水亭だったが、閉鎖したので緊急非難のつもりで、ここを利用した。お客は少ない。ホテルの宿泊客は割引があるらしく、結局、226.18元/2人だった。カード払いである。日本食の食べ放題より安かった。

彼の面白い話を紹介しよう。まず「花のように鳥のように」を知っているかと聞かれた。歌らしいが、当方は知らないと答えた。何でも彼は知っているので、実に不思議だ。彼はマンションの近くで足浴をしているが、38元/45分が68元に値上げしたと、怒っていた。

次は娘の話。6月2日生まれで、2016年に6歳となって、9月に小学校入学となる。現在の幼稚園は30人クラスで、先生は3人（45歳・53歳など）。ある日、勤務先まで電話があって、呼び出された。ご飯の食べ方がダメ、行儀悪い、とのこと。その程度で呼び出しがあったら、仕事にならないと、憤慨していた。その通りでしょ！

小学校は15時30分のお迎えで、そうなると、現在の勤務体系では無理で、一時、退職を考えたが、定年が63歳まで、2014年から延長になったので、留まることにした。彼は3月4日生まれで47歳となる。

そこで、友人にお迎えを頼むことにした。費用は1,200元とのこと。小学校の月謝は1,600

元。彼のサラリーは 2,650 元/月で、子供のために月給がとぶことになる。

彼の母は現在同居しているが、年金は 3,200 元/月で、母から小遣いを 500 元/月貰っており、奥方（12 月 19 日生まれの 40 歳）からは 400 元/月となる。

ホテル勤務の彼は、朝・昼飯は無料、シャワーは無料となる。靴は半年に 1 足支給、服は年 3 回支給、靴下は 2 足/月とのこと。次回の日本からのお土産として、浴衣と色紙を持参することになった。

そして、人さらいの話。1 月 3 日、同僚の娘が行方不明となった。何者かがさらったらしい。現在も行方不明とか。怖い話である。それから泥棒の話。とあるマンションの 6 階、窓から犯人が侵入。1 月 21 日のこと。家族 4 人いたが、怖いので、寝たふりをした。結果、被害額は 6,000 元。続いて、犯人は 5 階へ移動し、1.3 万元を手に入れ、4 階では 4,000 元をかすめたのである。犯人は男 1 人だったが、怖いので、声は出せないらしい。大胆な犯罪である。

張氏は母親の家を賃貸しているが、早速、窓に鉄柵を 3,000 元でつけて、対策を行った。北京の人口は 2,300 万人を数えるが、水不足が深刻化しており、2,380 万人に留められるらしい。

彼のタイムスケジュールは次の通り。

5 時起床、5 時 20 分出発、電動自転車通勤、6 時前にホテル着。7 時から 16 時まで仕事。16 時 30 分、娘のお迎え。その後、夕飯の準備。

妻は、7 時 30 分、車で出発して、8 時に娘の見送り（幼稚園へ）、8 時 30 分から 19 時まで銀行で仕事。政府の政策（交通混雑緩和）で、退勤は 19 時以降となったとのこと。

(4) 2015 年 3 月 8 日（日）：招き猫・民俗酒樓

王師傳の女友達に午後から会った。彼女は強引で、ホテル 1 階の売店で招き猫を安く買ってくれた。小は 10 元、中は 20 元、大は 20 元（←35 元）。この分ではもっと欲しいと思ったが、在庫が無かった。

夕方、地下鉄で前門へ行き、その後、徒歩で楊梅竹斜街、続いて瑠璃廠へ。王師傳と民俗酒樓で食事をした。印鑑などを頼んでいたもので、その受け取りがメインである。彼の言い値で 1,000 元の支払いをした。内訳は印鑑 4 個・色紙 6 枚。夕飯代は 93 元/2 人で、王師傳のおごりとなった。帰路は和平路からいつもの特 2 路のバスで北京駅前街に着いて、19 時過ぎにホテルへ。

(5) 2015 年 3 月 9 日（月）：中国旅游書店・プライオリティバス

9 時 45 分、国際飯店裏のビルの 503 号室「中国旅游書店」へ。残念ながら、ドアは閉まっていた。10 時 30 分にチェックアウト。北京駅東から空港バスに乗った。24 元。出発する際はスーツケースを下のトランクルームに入れることが出来るので大助かり。11 時 50 分、全日空のカウンターでチェックイン。スーツケースは 16.7 キロだった。張氏から頂いたお土産の酒が重い。

13 時、中国国際航空のラウンジへ。プライオリティバスの利用が OK だった。ご飯とかドリンクがあるので、気楽に過ごせる。不味い海苔巻きもある。NH 160 便（14 時 35 分発）は順調に飛行して 18 時 15 分過ぎに関西空港へ着いた。

4. 雨季のチェンマイ行き (2015年8月18日～23日)

2015年8月18日(火)から23日(日)まで、タイ北部の温泉調査に行ってきた。名目は「大阪観光大学とラチャプリユック大学(RPU)との研究及び教育上必要とする分野での交流に関する覚書」である。この調査は2008年から実施しており、2015年で7回目となった。これまでバンコク周辺2回、チェンマイ周辺で4回実施した。

今回は雨季で道路事情が悪く、天気を見定めての行動となった。結果としてチェンマイから比較的近いランパーン県、そしてチェンマイ県の温泉調査となった。

(1) 2015年8月18日(火)：飛行機・マッサージ

①飛行機

恒例となったTG 623便(関空発11時45分)に搭乗。手荷物検査場は長蛇の列で20分待ちとなった。そう言えば、こここのところ、ずーっとこんな感じで、外国人が増えていることを実感した。出発ゲートのカードラウンジ「六甲」も満員で、ドリンクの持ち出しを認めていた。

新聞によれば、外務省の統計では、タイに住む日本人数は64,285人とか。機中では映画「インセプション」を見た。

結局、現地時間(時差は2時間)、15時過ぎにバンコクのスワンナプーム空港へ着いた。15時50分、パスポートコントロール。ここで入国となる。その後、手荷物検査。両替をしたところ、1万円=2,626B(バーツ)で、つまり1B=3.8円だった。以前は1万円=4,000Bの時代もあったので、円安は日本人観光客にとって本当に厳しい。

次は乗換えで、TG 116便(17時20分発)となる。ゲートナンバーはすぐに出ないので、自分で探すことになる。結局「B5」となった。これは毎回異なるので要注意。目的地のチェンマイには18時30分到着。ガイドさんのお迎えがあった。

②マッサージ

19時過ぎにMKレストランで夕飯。ガイドさんの提案で鍋料理にした。1人は398Bと高い。アヒルの肉もあった。その後、いつものところでマッサージ。場所は「Kad Suan Keau ChiangMai」の地下1階で、屋号は「Service for Thai Massage」となる。営業時間は10時から21時まで。

19時30分から20時45分まで。支払はガイドさんが行ったので不明。たぶん1人1時間300Bで、チップ100Bだと思う。何でチップを多く払うのかと聞いたところ、チップを払えば、サービスが良いとのこと。チップの相場は20Bと思うのだが…。この点はガイドさんとあわない。

マッサージをしながら、マッサージ嬢にガイドさんを通して温泉利用の聞き取り調査をした。Aさんはサンカンペーンとかドイサケットに行くらしい。ドイサケットは実家に近いとのこと。Bさんは実家がファン温泉の近くで、帰省した際にたまに出かけるらしい。温泉が好きで行くのではなく、ついでに行くとのこと。

隣に若い日本人男性がマッサージ中だったので、少しだけ話を聞いた。彼は26歳で、山形県でホテル勤務だったが、辞めてチェンマイでロングステイをしているとのこと。3ヵ月の予

定で、近くのコンドミニアムで住んでいる。ガイドさんが名刺を渡して、タイ語の学習を進めていた。商売熱心です！

(2) 2015年8月19日(水)：ロングドライブ・ポンローン温泉・ジェーソン温泉

①ロングドライブ

ドライバーがやってきた。いつもの方で文字通り専属となった。9時発。雨天でプラオ郡行きが変更となり、ランパーン県へ行くことになった。1泊の予定が、ガイドさんの弟が急にバンコク出張となり、夜は母上の面倒をみるため、日帰りになった次第。地方都市で泊まると、宿泊事情が良くないので、こっちもこれ幸いと思った。

11号線を走り、一路ランパーン県ゴカ郡を目指した。ランパーン県は焼き物と白馬の県とか。車のナンバーだが、黄色は仕事車、黒色は家族車らしい。

10時30分、ドライブインで休憩。朝飯らしい。肉ラーメン 50 B・レモンスカッシュ 30 B・バナナジュース 25 B だった。付近は水田で、田植えが終わったばかり。2期作となる。

ガイドさんは髪をショートカットにしていた。金額は 250 B。メガネは 200 B とのこと。メガネは 700 B から 1,000 B が相場とか。

男女の話聞いた。日本人男性は 62 歳で、古着の貿易をしている。タイ人の彼女は 24 歳。62 歳は 30 万円/月の収入がある。彼女に 1.3 万 B の金をプレゼントしたところ、彼女に彼氏がいることが判明し、62 歳は返還を求めたが、返金されず。そこで警察が入って、やっと 3,000 B をもらったとか。馬鹿げた話で要注意。日本人男性は、食堂のウエイトレス・マッサージ嬢・ホテル従業員などに声をかけて、交際をスタートするらしい。やめなさい！

11時、道路の傍に焼き物屋が多い。道は 1034 号から 1146 号号へ入った。タイ語で温泉は「ナン プ ローン」と言うが、ナンは水、プは高くする、ローンは熱いを意味する。発音は難しく、何度も直されたがダメだった。

②ポンローン温泉

11時30分、ポンローン温泉到着。公園の一部として温泉施設の整備となった。聞き取り調査によれば、投資はポンローン村で、投資額は 30 万 B。公園全体では 1,100 万 B とか。開発は観光振興のため。ポンローン村のポンは動物が土を食べる、ローンは熱いとなる。

開業は 1993 年。温泉施設の敷地面積は 1 ライ (1 ライ = 1,600 m²)。現在の経営者は村人夫妻で、3 年前から経営を引き継いだとか。村へ 10 万 B/年を上納するらしい。温泉は親の代からあって、動物が土を食べていたとか。泉温は 70℃ 程度で、ゆで卵が可能。

主な施設は個室浴場 10 室・露天風呂 1 つ (週末開放)・足湯・池 (ボート)・源泉池 (写真 9) などとなる。個室浴場は No.3 へ入湯した (写真 8)。80 B/部屋。時間は 20 分。No.1 と No.2 は予約で、前者は 30 歳代のカップル、後者は婦人 2 人組だった。

利用客は祭日や旧正月に多い。つまり 4 月がピークとなる。4 月中旬はソククラ祭りで、特に忙しいらしい。1,000 人ほどやってきて、イベントとしてボクシングを行っている。普段は繁忙期 100 人/日、閑散期 20~40 人/日。外国人の利用は 10% で、タイ人の大半は県内客となる。

中高年のイギリス人カップルと知り合った。半年間ロングステイでチェンマイに住んでおり、今回は観光のためにここを訪れたとのこと。入浴はしない。T シャツがあったので購入した。140 B が 120 B となった。

調査が終わって次の行き先の検討に入った。結局、以前に行ったジェーソン温泉へ行くことにした。この温泉はランパーン県に位置し、今回の調査ではポンローン温泉とジェーソン温泉を比較することにした。12時17分発、1039号線を進んだ。目的地はジェーソン国立公園。

ドライバーから話を聞いた。彼の干支はトリ年の57歳で、ドライバー暦は40年。最初はサトウキビのドライバーだったが、積荷を落として足を負傷。この車は運転暦20年とのこと。車はディーゼル車で、65ℓ入るとか。現在、単身赴任で会社の寮生活となる。妻子は田舎滞在。

③ジェーソン温泉

12時50分、1157線に行く。あと67キロ。チェンマイとゴーカ間は100キロ、ジェーソンとチェンマイ間は70キロで、本日の行程は300キロ、24リットルの消費らしい。

13時18分、大好きなトウモロコシ畑が続く。13時41分、128号線へ。さらに1252号線を通して、13時53分、国立公園のゲートに着いた。入園料は外国人200B・タイ人40B・車30B・60歳以上無料となる。ジェーソン国立公園は、開園が1988年7月28日で、全体で48ライ、温泉施設の敷地は3ライとなる。源泉数は9カ所で、浴槽の温度は38℃から40℃にしている。源泉の温度は池で異なり、75℃・80℃・82℃と書いてあった。温泉卵は73℃の場合17分とか。源泉は親の代から存在したらしい。

ここは広大な温泉公園(写真10)で、主な施設はビジターセンター・源泉地帯・コテージ(13棟)・レストラン・キャンプ場(100テント)・温泉施設・マッサージルームなど。温泉施設はすべてが個室浴場で、川の右岸21室(その内、1つは大浴場・プール)、左岸18室となる。前者の開業は1988年、後者は1995年。

利用客はタイ人80~90%で、外国人は10%~20%程度。欧米・韓国・日本・マレーシア・シンガポールなどが多い。

ここは観光統計が素晴らしい。ビジターセンターの玄関先に入園者の統計を月ごとに2年間表示していた。2013年10月から2014年9月までは147,888人の入園で、収入は8,949,548Bとのこと。2014年10月から7月は183,035人で、収入は1,047万B。2013年に比べると、大幅アップである。

事務所で日本からのお土産を渡して2回目の訪問と告げると、観光統計をプリントアウトしてくれた。2年間の月ごとの統計で貴重な資料だと思う。いずれ某学会誌に投稿する考えである。しかし、タイ語の数値で、結局、ガイドさんに翻訳をもらった。次回はもっと詳細なデータがもらえると思う。今回は左岸の個室浴場に10分ほど入湯したが、50Bだった(写真11)。

14時50分発、一路チェンマイへ。山道である。17時8分、宿泊先のパンティラハウスに着いた。すぐにいつものマッサージに出かけた。17時40分から19時40分まで。足・肩・背中をもんでもらった。身体が硬いので、1ヵ月滞在すると良いらしい。

マッサージ嬢(大半はオバさんだが)のユニホーム(主にTシャツ)だが、色は毎日変わるとか。月曜は赤色、火曜は黄色、水曜桃色、木曜はオレンジ色、金曜は水色、土曜は紫色とのこと。これだと分かりやすい。

(3) 2015 年 8 月 20 日 (木) : ノークロック温泉・ボンバンバーン温泉・ブアトーン国立公園

①ノークロック温泉

9 時スタート。途中でスタンドへ。750 B 入れたらしい。ガソリンをたぶん 20 リットル以上を入れると、1,500 ミリリットルのミネラルウォーターのサービスがある。この車はトヨタで、10 人乗り。

11 時、パラオ (Phrao) 郡庁舎前通過。11 時 10 分、1346 線へ入る。この辺の土地は 1 ライ = 100 万 B らしい。

11 時 16 分、田園地帯にあるノークロック温泉へ着いた。暇そうにしていた村人 (数人の男ども。管理人らしい) に話を聞いた。ここは 2003 年 11 月に開業らしい。温泉は親の代からあり、シカが温泉の土地を食べていた。開発は県が 200 万 B を投資して行い、現在、村が経営している。村の名前はサンサイ村。住民数は約 450 人で、毎日 4 人で温泉施設を管理している。週に 1 回、トイレ清掃、園内の掃除をしているとか。温泉施設は露天風呂と個室浴場となるが、現在、個室浴場は使用不能。かなり汚い。露天風呂も使用可能なものはプール (露天風呂) 1 ヲ所・小規模な露天風呂 3 ヲ所程度で、他に温泉卵の池が 2 ヲ所となる。

12 月と 1 月の冬になると、利用客が増えるらしい。入浴料金は現在無料。以前はチップ制度だった。

現在、数人の軍人が事務所で滞在し、10 ヲ月に及んでいる。利用客は外国人 30%・タイ人 70% で、外国人は欧米人が多い。タイ人はプラオの人が少ない。昨日はイスラエル人が 40 人、本日は 30 人が来るとか。彼らはメーホンソン県のバーイ郡からの帰路に立ち寄る。

冬はテント持参でキャンプをする人が多い。多い時は 1,000 人/日、少ない時は 30 人/日。日本人も来るらしい。園内には管理棟の他に建物は 3 つ。1 つ目はトイレ、2 つ目は個室浴場 (3 ヲ所) とシャワールーム (3 ヲ所)、3 つ目は個室浴場 (4 室) である。残念ながらトイレ以外は使用不能である。冬の前に改装するらしい。源泉は 4 ヲ所。源泉池に酔っ払いが誤って入って、死亡した例があるらしい。

床がスベスベするプール (露天風呂) に入浴した (写真 12)。隣の露天風呂に入浴する夫妻に話を聞いた (写真 13)。メイテンに住む方で、母親のお見舞いで郷里に帰り、その際に入浴をするとのこと。日本からのお土産を差し上げたところ、ライチを頂いた。感謝。

②ボンバンバーン温泉

12 時 4 分発、チェンマイまで 100 キロらしい。12 時 34 分、途中で昼飯。豆腐とハクサイのスープ 50 B・チャーハン・焼きそばなどを食べた。タイ風味の焼きそばは口に合わない。

12 時 52 分発。途中で小雨が降った。13 時 20 分、ボンバンバーン温泉到着。プラウ郡のメイベン村にある温泉施設だ。蓮の村を意味する。2012 年頃、県が開発し、村の運営らしい。

面積は 1 ライ程度で、一応、温泉公園となっている。係員は不在。温泉施設は 2 棟と露天風呂 2 つ。1 棟は 6 ヲ所のかけ湯、もう 1 棟は 4 ヲ所の個室浴場となる。露天風呂は水着着用となる。入浴料は個室 20 B・露天風呂 10 B。料金箱の中にお金を入れる仕組みだが、小銭が無かったので、タダで入った。水着だと干すのが面倒なので、いつものように裸入浴をした。源泉は新旧 2 ヲ所を確認した。キャンプ場もあるが、この時期はキャンプの確認は出来ない。廃れた感じがした。

③ブアトーン国立公園

13 時 44 分発、1001 号線を走った。14 時 18 分、小道に入る。14 時 13 分、ブアトーン国

立公園に着いた。2003年9月10日開園。面積は9,375ライ。洞窟・滝・溪谷が主体の公園となる。湧水地帯の見学を行った。子供たちが池で遊んでいた。ここは入園料無料だった。温泉はなし。

14時54分発。16時12分、ガソリンを入れた。400Bで16.91リットル。ガイドさんはドライバーにチップを500B渡したとか。

16時25分、パンティラハウスに着いた。17時30分から19時30分まで、いつものところでマッサージ。マッサージ中、ラチャプリユック大学の学長からガイドさんに電話があった。2016年3月、学生が大阪観光大学に来て、語学研修をしたいとのこと。帰国後、関係者と検討する旨をお知らせした。

20時10分からTSUNAMIで夕飯。カツどんが食べたくて食べた。65Bだった。路面店でお客が多かった。近くの駐車場は30B/時間。21時30分、パンティラハウス到着。

(4) 2015年8月21日(金)：金の交換・チェンダオ・ボンアン温泉

①金の交換

公式の温泉調査は終わったので、本日は非公式の温泉調査となった。行き先はチェンダオ温泉。ガイドさんは途中の坂道を嫌がったので、当方が主に運転することにした。

10時出発。まず以前に購入した金を現金に替えることにした。店舗の屋号は漢字で「行金成和馬」。15g 18,500Bで購入したが、19,550Bとなって、1,000B儲けたことになる！。1B=3.8円とすると、74,290円となるが、実際は3.5円程度なので、たいした金額ではない。少しだけ夢をみた感じ。

②チェンダオ

11時40分、ガソリンを入れた。34.71リットル。途中、軍隊によるチェックポイントをフリーパスして、12時40分、レストラン竹に着いた。同姓の浦氏が経営する食堂である。ところが、ゲートがあって閉鎖中。近所の人の話では、まだ住んでいるとのこと。その内、母屋から人が出てきた。旧知の浦氏だった。せっかく来たので、日本からのお土産を手渡して、話を聞いた。

レストラン竹は2008年に開業したが、赤字続きで2014年12月閉鎖。彼の経歴は実に面白い。1995年頃からバンコクで貿易商を行い、15年間ほど材木や果物を取り扱った。その際、大臣と知り合って遊び仲間となり、彼の選挙区であるチェンダオに移住することになった。2005年頃の話で、現在のバイパスが開通する前のことである。バイパスは2009年に開通した。土地を買う際に45万B/ライ(1ライ=1,600m²)と言われ、即刻5万Bの手付けを支払った。この土地は兄弟3人で所有しており、3ライを100万B程度で仕入れたのである。その土地で母屋とレストランを建設した。

いま、40~80万B/400m²で売りに出しており、売れたらバンコクで所有しているコンドミニウムに住んで、チェンダオで温泉開発を行うとのこと。バンコクのコンドミニウムは250万Bで購入したが、現在は500万Bの価値があるとか。

同時に、奥方の郷里(東北)でも家をプレゼントしている。土地があったので、45万Bとのこと。やはり甲斐性がないと、タイ人女性とは付き合えないと思った。

彼の会社はMITAKEと称し、2010年に立ち上げた。2012年から焼酎「角兵衛」そして梅酒「幸」を製造・販売し、2013年から天然水「星山」を製造・販売している。工場はバイパ

ス沿いの路面店となる。許可に3年ぐらい要して、困ったとのこと。

現在、考えていることは、環境ビジネス。つまり焼却炉の販売となる。100億円/台のビジネスを仲買しており、手数料は大きい。また、近くで土地が売り出されている。650万B/3ライとなり、温泉が沸いている。1ライは購入可能だが、3ライとなると、キツイとのこと。

2005年頃、この土地にやってきた訳だが、森林野生動物管理局の前で、すでに土管温泉の開発が行われていた。この温泉はチェンマイ在住の日本人が2004年4月15日に整備したとのこと。数人で資金を持ち寄ったとか。

浦氏は、現在のほたるの湯の開発を行った。完成は2009年7月だが、個人資産を100万円ほど投資した。面積は1ライ程度で、トイレ・電気設備・露天風呂2カ所を造営した。チンプト村に住むカレン族(80人程度)に仕事の機会を与えるため、しばらくして運営をカレン族に任せたのである。カレン族は小屋を建て、食事を提供している。入浴は50Bで、予約制となる。空いておれば、すぐに入浴は可能である。利用客は2人から100人程度/日。隔離された岩風呂の露天風呂だが、日本人以外は水着入湯らしい。

興味深い話を聞いた後、13時55分、土管温泉に行った(写真14)。看板が整理され、「チェンダオ土管温泉 2004年2月15日」と書いてあった。看板は2013年3月24日建設とか。土管を数えたら8カ所あった。メイテン川源流の左岸に面している。女性2人組が入浴中だった。メイテンから月に1回来ているとか。バイク利用で、目的は健康・痩せるためとのこと。素晴らしい。1人の方は日本語が話せた。時間が無いので、見るだけにした。

14時20分、1178線沿いの警察が経営するリゾートで昼ご飯。注文してから食べ終わるまで1時間も要した。

③ボンアン温泉

16時5分、国立公園に位置するボンアン温泉に着いた。2回目だが、あまりにも遠いので、一度引き返し、何回も聞いてやっとたどり着いた。2000年開業となる。面積は1ライ程度。入園料は外国人100B・タイ人20B・車30B・温泉入浴30Bで、60歳以上の入園は無料となる。ガイドさんは機転を利かして、当方を無料にしていた。そうするとジェーション温泉でもそうすれば良かった…。あとの祭りである。

温泉施設内には源泉池58℃と51℃があつて、いずれもイオウ系となる。付帯施設はビジターセンター・温泉施設・キャンプ場などとなる。

温泉施設は露天風呂・個室浴場(4カ所)・シャワー室(6カ所)となる。利用客はタイ人が中心で、5,000人/年程度。個室浴場に入浴したが、お湯が入れてあつた。

何かしら綺麗だと思ったら、2014年にリニューアルしたとか。やっぱり。スタッフは9人。テント(持参組)は1人1泊で30B、借りる場合は225B/2人となる。

英文の説明看板を読んでみた。シカ・イノシシ・鳥などが昔から利用しており、温泉は古くから沸いていた。フッ素を含んでいる。適応症は麻痺・皮膚病とか。

16時34分発。途中、軍隊によるチェックポイントがあるので、チェックポイント手前で列をなす売店で買い物をすることにして、一時運転を交代した。その後、チェンマイ市街地に近づくにつれて道路混雑となり、結局、チェンマイのMAYAというショッピングセンターには19時に着いた。地下のリンピンというスーパーへ行って、浦氏が販売している焼酎を確認した。

夕飯はYayoiでサンマ定食179Bを食べた。お茶は25Bとなる。21時30分、パンティ

ラハウス到着。

(5) 2015年8月22日(土)：マッサージ・帰国

①マッサージ

帰国の日である。9時出発。早速、最後のマッサージ。場所は正確に「Kad Suan Keau Chiang Mai」の地下1階で、屋号は「Service for Thai Massage」となる。営業時間は10時から21時まで。ここは自主的に早出をする人がいて、その人が出勤していれば9時30分でもマッサージが可能となる。9時45分から11時15分までマッサージ。その後は昼飯で、やはりサラダ主体のレストランにした。

②帰国

12時30分発でチェンマイ空港へ。ガイドさんは別の仕事があって、空港ですぐにバイバイした。

TG 111 便はバンコク行き(15時10分)で、バンコクには16時20分着。バンコクではTG 622 便(23時30分発)に乗って、関空には翌朝7時到着となる。チェンマイのチェックインの際、隣をみたら長蛇の列だった。中国の観光客で昆明に帰るらしい。

16時32分、バンコクのスワナプーム空港へランディング。2階の国際線に行き、手荷物検査。その後、タイ航空のラウンジへ。プライオリティパスで入れると思ったらダメで、隣にプライオリティパス専用のラウンジがあった。ここは最大2時間の入場制限があって、飲食の種類も少なかった。

23時45分テイクオフ。機中、すぐにスナック、未明に朝飯(オムレツまたはチキン)が出るが、逆にして欲しい。3時間程度の睡眠では飯は喉を通らない。8月23日(日)、日本時間7時過ぎに関空へ着いた。

5. 残暑の北京と山西省行き(2015年8月25日～8月31日)

2015年8月25日(火)から8月31日(月)まで、6泊7日で残暑の北京と山西省へ出かけた。9月3日の抗日戦争勝利70周年記念式典を避けての中国行きとなった。ここでは、紙面の都合で、その一部を掲載したい。

(1) 2015年8月25日(火)：出国・空港バス・夕飯(省略)

(2) 2015年8月26日(水)：第2ターミナル・神湯都温泉楽活園・小院温泉大衆浴・夕飯

①夕飯

19時15分から20時まで王さんと夕飯。メインはマーボー豆腐・野菜スープ・ご飯などで、実に健康食となる。席上、この温泉施設の実質No.1の女性と挨拶をした。彼女は2012年5月に着任しており、同年6月に着任した王さんより1ヵ月早いとか。位は支配人の上らしい。

隣に出来た水上楽園は2015年7月20日にオープン(写真15)。敷地は7,000m²で、村人が出資したとか。園内に5施設あるが、いずれも水の遊び場となる。神湯都の入浴券を買えば、ここはフリーとなる。スタッフは神湯都温泉が提供している。儲けの分配は今後の課題と

か。

神湯都温泉の入浴料は大人 118 元・子供 98 元で、同 168 元・118 元だと、お土産付となる。ホテルの標準間は 498 元だが、事情（値下げ要求など）によっては 398 元にするらしい。

王さんは重慶の温泉施設を見学したが、敷地内で水上楽園を作ること、浴槽は漢方薬湯風呂・ワイン風呂・ジャスミン風呂・ミルク風呂などがブームとか。

(3) 2015 年 8 月 27 日 (木)：施設見学・講座・鳳凰山生態植物園・小院温泉大衆浴・夕飯

①施設見学 (省略)

②温泉講座

11 時 30 分から 12 時 30 分まで神湯都温泉で講演をした。テーマは「日本の温泉旅館の経営」。本当は山西大学の学生用に用意していたが、大学は夏休み中で代講となった。受講生は施設の係員で、支配人以下 20 人程度が集まっていた。司会は昨日挨拶をした人で、彼女が実力者だと思った。13 時まで質問タイム。「日本の温泉はなぜ綺麗か」⇒「常に清掃をしている。日本人はモノを外に捨てる習慣がない」。「清掃はどうしているか」⇒「常にしており、気がついた人がゴミ掃除をする」。「ここの課題は何か」⇒「清掃を徹底する。シャワールームに脱水機を入れる。空港までアクセスを確保する」など。13 時 15 分から 14 時まで昼飯。野菜中心の健康食をお願いした。

③鳳凰山生態植物園 (省略)

④小院温泉大衆浴 (省略)

6. おわりに

2015 年は 5 回ほど温泉がらみの海外旅を経験した。行き先はいつも同じで、仲間から別の場所はどうか、と言われる。まあ、「継続は努力なり」の精神の元、海外旅を実行している。ところで、2017 年は海外旅行 40 周年となる。いつまで続けるのか、誰も分からない！

付記

本報告は今日新聞（別府市の夕刊紙）で、2016 年正月号、そして、その後数度にわたって連載した内容に加筆・修正したものである。しかし、今回、紙面の都合で 2 回分の旅日記「チェンマイでの研究発表と温泉予備調査」2016 年 5 月 25 日～30 日（全文）・「残暑の北京と山西省行き」（2015 年 8 月 25 日～8 月 31 日）（一部）を省略した。



写真1 THE SIRI コンドミニアム外観



写真2 ピン川沿いのコンドミニアム (遠望)



写真3 ランナーゴルフコース (キャデイとガイドさん)



写真4 結婚式の花嫁@CHIANG GYMKHANA CLUB



写真5 タイ式寺院@ラチャブリック公園



写真6 キャンプ@サンカンペーン公営温泉



写真7 12元の亜州拉面@小湯山温泉



写真8 個室浴場@ポンローン温泉



写真9 源泉池@ポンローン温泉



写真10 源泉地帯@ジェソン温泉



写真11 左岸の個室浴場群@ジェソン温泉



写真12 プール (露天風呂) @ノーンクロック温泉



写真13 プラオからの夫妻と共に@ノーンクロック温泉



写真14 チェンダオ土管温泉



写真15 水上楽園@神湯都温泉